

Title	序：「運転席に後ろ向きに坐ってはならない」：最近の教科書問題によせて
Author(s)	大木, 英夫
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.19, 2001.1 : 3-4
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3468
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

序 「運転席に後ろ向きに坐つてはならない」

——最近の教科書問題によせて——

聖学院大学総合研究所長 大木英夫

「新しい歴史教科書をつくる会」がつくった教科書のことについて、韓国や中国から相当強い批判の声が上がっている。「つくる会」がいよいよ国際批判にさらされた。かねてよりこの会の動きは注意を要すると思つていた。昭和初期、経済不況の中に高まる国民不安を背景に、大正リベラリズムに反動して急速にナショナリズムが台頭してきた、その頃のこととがまだ記憶に残るにもかかわらず、この「つくる会」は今日閉塞感の鬱積する中で類似の状況をつくり出そうとしてきたからである。戦後の「自省」を「自虐」と言い換えて、日本人の傲慢の残り火をかき立てる、その狡知が一個の歴史の勢力となろうとしてきたのである。それは、教育基本法改正を求める政治的波長と同じ波長で、日本国内に発信されてきた。ところが、今日、電波は国境を超えて、近隣諸国に傍受され、国内よりも敏感な反応、強烈な反撥を惹き起こした。

これは、二十世紀と二十一世紀の状況の違いであろうか。二十世紀は、国内は一種の情報鎖国であった。しかし、今、それは許されない。日本は、折角新しい関係を隣国と造り上げようとしながら、

みずからそれを挫折させる。しかし、それに対する問題意識は、日本国民の間では目覚めていないのではないか。ジャーナリズムも、取り扱いが鈍重で、外国との間に温度差がある。なによりも、この問題に関する日本政府の弁明はおかしい。外国では理解できないのではないか。政府の歴史理解は外交的に表明されたとおりで、「つくる会」の教科書の歴史理解とは違うと言うが、それは、検定という文部行政の所行は外務省の所轄ではないというような二枚舌で、国際的信頼を壊すのではないか。国際関係の「倫理」ということもある。医の倫理、環境倫理、政治倫理だけではない。

それにしても、最近の政治の傾向は、日本の将来にとって毒麦の芽生えのようである。昭和の初期のナショナリズムの毒麦の芽は、どんどん伸びて、繁茂して日本国中に広がり、あの戦争まで行った。幸いなことに、今日の世界は、このような独善的ナショナリズムが世界にはびこることを傍観黙認しなくなっている。近隣の反撥を受けて、もはやそれを内政干渉などと言うことはできないであろう。この教科書は、検定に際して相当訂正させられたようだが、それを「屈辱的」とまで当事者は言つたという。それでも出したい、なぜだろうか。

今日の日本政治は、経済、金融、技術面ではグローバル化を目指し、他方でこのようなナショナリズムに曲がり出す。これは、ジェット旅客機やバスの運転席に後ろ向きに坐っているような有り様ではないか。世界史の動向に逆らつて日本を運転する政治。この危険は恐るべきことではないか。ちゃんと前を見て注意深く運転しないパイロット、それともある種の観念によつて視野狭窄になっているのか、未熟かよつぱらいか、危険は乗客の生命財産を脅かす。その場合、パイロットを変えることが急務となるであろう。——このような状況の中で、本研究所は、世界史の動向の問題と取り組んできた。共通テーマは、今年も「市民社会と国家の役割」である。